

浜松に惹かれて移住し、起業した
マリンスポーツプレイヤー

浜松は日本の「カリフォルニア」!? 浜名湖・
遠州灘をホームグラウンドにマリンスポーツ
を趣味とする起業家たちの想いに迫る。

スポーツの醍醐味はここにある。
アマチュアの「もつと上手になりたい」
を叶えるアプリを開発



Windsurfing

株式会社SPLYZA
代表取締役
土井寛之さん
(兵庫県出身)



一流に遊ぶ、 一流に働く。

土井さんのご出身は神戸市とのことで
が、浜松での起業に至るまでの経緯を教
えてください。

大学卒業後、浜松のソフトウェア開発会社
に勤めていた頃、友人に誘われて浜名湖
で初めてウィンドサーフィンを経験しまし
た。その面白さの虜になったことがすべて
の始まりです。仕事を辞めて1年間、オー
ストリアでウィンドサーフィンに明け暮
れていた時期もありました。ある時、車こ
とウィンドサーフィンの道具が盗まれて、
買い揃えるお金もなくすべてを失うこと
に。「この際、好きなスポーツに関わる仕事
で起業しよう」と一念発起。ウィンドサー
フィンとは4年ほどお別れし、仕事に専念



しました。浜松を選んだ理由は、一緒に起
業する仲間がいたこと、家賃が安く、会社
の近くに住むことができるので、家族との
時間を多くとれること、東京・大阪へのア
クセスが良いこと、市場として程よい大き
さであること、ウィンドサーフィンに最適
な浜名湖があることなど、浜松にはすべて
の条件が揃っていました。
「SPLYZAの事業は、アマチュアのスポー
ツマンのための動画分析・アプリの開発と運
営です。そこに目をつけた理由とは？」
プロ向けのサービスはあるのに、アマチュア
の「もつと上手になりたい」という願いを叶
えるものは存在しませんでした。スポーツ
をする人は健康になりたいからスポーツを

外食産業に改革を。 ここに笑顔を咲かせる ーIT飲食業を確立

渡邊さんは、母親の実家が和菓子屋を営
んでいた影響で、いつか起業することを決
めながら、起業の街アメリカのシリコンバ
レーに本社を置く日本オラクル株式会社
(東京)に入社。ある日、浜松出身で、同じ
サーフィンの趣味を持つ同僚に連れられ、
浜松へサーフトリップをした。どこまでも
続くビーチ、海水の温かさ、地元サー
フラーのアットホームでウエルカムな雰
囲気、サーフィン後の温泉とおいしい海の
幸…「楽園だ」と一瞬で浜松に惚れ込ん
だ。以後、毎週金曜に東京で仕事を終える
とそのまま浜松へ車を走らせる生活を
2〜3年続ける。

一方で楽天やライブドアなど、IT企業が
すこぶる成長をみせていたため、起業する
にはITが必須だと気持ち、猛勉強した。
そしていつしか、製造と販売が合体しシン
ブルな利益構造を持つ外食産業に目をつけ
る。産業規模が莫大ながら、独占企業がな
く9割が中小企業である外食産業で、ITに
よる運営の合理化を実現すれば、革新的な

事業を展開できると考えたからだ。

浜松なら政令指定都市で80万もの人口
規模を誇り、工業都市であるがゆえ比較的
所得は高いが、一方で出店に要する賃料が
安い。浜松はサーフィンライフに最適なだ
けでなく、事業の勝算もあった。10年前、浜
松からスタートし、居酒屋ダイニング「てん
くう」を主軸に20店舗へと拡大。「外食クラ
ウドサービス」と、飲食店とECモールの
融合を図る「外食オムニチャネル」の事業も
推進する。渡邊さんは「浜松発、飲食主体の
上場企業の第一人者となり、外食産業の地
位の底上げに貢献していきたい」とさらな
る事業拡大を目指す。



Surfing

株式会社こころ
代表取締役
渡邊一博さん
(広島県出身)



ウエイクボードやスキューバダイビング
など、多くのマリンスポーツを趣味とす
る山内さん。浜名湖の特徴的な地形や大
自然を隅々まで堪能できるボートにはま
り、クルージングサーブیسを行う「オフイ
スナッツ」を起業した。高性能で高級感あ
ふれるボートで従来のクルージングとは
一味違う水上ドライブを提供。オフシー
ズンにも湖面に止まった状態で、上質な
グリルやフルーツを堪能しながら浜名湖
の絶景をゆっくりと楽しめる。

その傍ら、山内さんは光産業創成大学院
大学で、次世代型観光産業の創出に向け
た研究を行う。ボートサービスのアトラ
クションとして光演出(A.R)の実現と、
船底への付着生物をそぎ落とす光レー
ザーの開発に取り組んでいる。

自然と文化、テクノロジーを融合させ、
創業の地「浜松」を世界にアピールできる
観光地域にしたい。観光とは「その土地の

光テクノロジーで次世代型 観光産業の創出を目指す 熱き浜名湖のエキスパート



Boat

光産業創成大発
ベンチャー企業
オフィスナッツ株式会社
代表取締役
山内秀恭さん
(静岡県出身)



優れた場所、モノ(光を「観る」こと)と
捉えられる。莫大な資本力があればドバ
イの宮殿すら作れるだろうが、浜松なら
では最大の財産「自然」を、光技術を
使っていくに伝えていくか、が山内さんの
テーマ。大学の博士課程でさらなる修練
を積み、浜名湖を中心とする観光産業の
発展に今後も全力で関わっていきたく
と語る。

続けるだけでなく、上手くなるのが楽
しく、今以上に上手になりたいと思うから
続けるのです。上達するプロセスにワクワク
し、達成感や感動を得るといふスポーツの
価値を多くの人に伝えていきたいです。
今後の事業展開は、どのようにお考え
ですか？
すでに多くの大学や企業が活用していま
すが、昨年開発した、戦術やデータ分析が
できる「チーム向け」のアプリを拡大して
いきたいです。日本の教育は先生が指導
し、生徒が従うというスタイルです。自ら
分析して考え、上達するというプロセスに
こそ意味があるのに、軽視されがちです。
部活動でも録画した試合を、指導者が
一人で長時間かけて編集・分析し、後日選手
に指導するというのが一般的ですが、この
アプリを使えば、動画を一括で編集でき、
選手が自分で分析することが可能です。
先生や指導者の業務短縮にもなり、生徒
たちにスポーツの醍醐味を伝えられる、ま
さに画期的なツールだと自負しています。
土井さんにとって浜松はどんな場所
ですか？
ウィンドサーフィンとの出会いがなけれ
ば、起業もしていなかったでしょうから
「浜松」は私にとって原点です。良い風が吹
き、気候も良く、大阪や長野など遠方から
浜名湖に毎週通う人もいられるほど、ウィンド
サーファーにとって憧れの場所です。また
誰でも起業するとき「失敗したらどうし
よう」と不安になるのですが、浜松はベ
ンチャー企業を積極的に応援してくれま
す。チャレンジングな仕事がしやすい地域
だと思いますよ。